

# 令和7年9月定例会会議録

(令和7年9月29日)

八代市教育委員会

## 八代市教育委員会9月定例会会議録

【開催日】 令和7年9月29日(月)

【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室

【出席者】

中 勇二	教育長
渡 邦裕	教育委員
早 田 蛍	教育委員
澤 村 瓦	教育委員
丸 山 智子	教育委員

【出席職員】

田 中 智樹	教育部長
鋤 田 敦信	教育部次長
下 津 恵美	教育部次長
押 方 佐地子	教育政策課長
加 賀 真一	学校教育課長
稻 本 健一	教育部理事兼教育施設課長
泉 宣 孝	生涯学習課長
中 村 裕一	教育サポートセンター所長
田 島 良 洋	博物館未来の森ミュージアム副館長
植 田 浩 之	未来の学校づくり推進室長

【事務局】

池 田 拡 次	教育政策課主幹兼教育政策係長
浦 本 美代子	教育政策課参事

### (審議事項)

- <報告案件>
- ① 報告第19号 八代市教育振興基本計画の策定について
  - ② 報告第20号 本市の不登校の状況と不登校に係るアンケート結果について

1. 開会 (午後2時00分 開会)

2. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要なものについて報告

3. 会議録承認 令和7年7月定例会

4. 議題

<報告第19号> 八代市教育振興基本計画の策定について

押方教育政策課長 次期(第4期)教育大綱の方向性の変更及び教育振興基本計画の策定体制について報告する。資料により説明

丸山教育委員

方向性については、事務局の説明のとおりでよろしいかと思う。そもそも一体化させるというのは、シンプルなかたちで分かりやすくというのが目的であったので、教育大綱が市の総合計画と一体化することは、基本となる計画と一体化するということであるため、本来あるべき姿であると思う。1点確認したいが、今まですでに八代市教育振興プランの策定作業を進めておられたが、作業的な部分で不都合はないだろうか。

押方教育政策課長

今までプランの策定作業を進めていたが、プランにおいては、基本目標の5つの柱の部分を教育大綱とする予定としていたため、これを教育大綱の位置づけではなく、教育振興基本計画の基本目標というかたちにしたいと考えており、特に影響はない。

中教育長

市長就任の日の幹部への訓話で最初に言われたことであるが、計画を作つて行政の進む方向を示していくというやり方もよいが、いくつも計画や方針がありすぎてよく分からない。計画づくりに力を割くよりも実際に推進すること、また行った内容を評価してもらうことをしっかりするべきであるという考えを述べられた。策定委員会や審議会などは、法律で必置とされているものは仕方ないが、市の要綱等で定めているものについては簡素化するという強い意向を持っておられる。外部の方や住民の方々、保護者の方々、専門的な知見をどう取り入れていくのかについては、これから検討しなければならない。このようなことについても、次回ご意見をいただきたい。

渡邊教育委員

異論はない。かなり大きな変更であると思っている。八代市教育大綱という名称で、総合計画のなかに盛り込まれていくのだろうか。

押方教育政策課長

総合計画の位置づけの一つに教育大綱という位置づけもあるという一文を追記するかたちになると思う。

渡邊教育委員

教育大綱については、以前、素案が出ていたかと思うが、内容的には市長の方針等も入ってくると思うので、これから の作業になるだろうか。

押方教育政策課長

そうである。

中教育長

言葉としては、総合計画をもつて教育大綱に充てるという表現になるのではないか。

田中教育部長

総合計画の教育についての一部分が、教育大綱になるようなイメージである。当然、中身のつくり込みについては、教育委員会で行うことになる。

＜報告第20号＞ 本市の不登校の状況と不登校に係るアンケート結果について

中村教育サポートセンター所長

本市では、小中学校の不登校児に対して学習支援を行っている八代市教育支援センター「くま川教室」が、千丁支所2階で活動している。現在、くま川教室のさらなる充実に向け検討しているところであるが、本日は、本市の不登校の今の状況とくま川教室の充実に向け、不登校児とその保護者に対して行ったアンケート結果について報告する。

資料により説明

澤村教育委員

出現率が八代市は全国や県に比べて高い割合になっている。理由は分からぬといふ説明があったが、八代市が他より高い数値になっているおおよその原因が分かれば教えていただきたい。原因が分からぬといふ対策が難しい面があると思う。

中村教育サポートセンター所長

不登校については、本市では1月に不登校対策プランを策定し、その中に大きく3つの柱を設けている。まずは、未然防止、2つめは早期発見、早期対応、3つめは長期の不登校になってしまった子供たちへの自立支援である。現在、くま川教室で取り組んでいるのが、長期の休みに入った子供たちへの支援である。未然防止という部分で、学校と連携していくかなければならないと考えている。八代市の先生方が、他の市町村や県より子供たちの未然防止に対して後手後手に回っているということではないが、まずは、未然防止と不登校になってしまった子供たちの支援の両方があって初めて、不登校の改善が数値として現れてくると考えている。不登校のはつきりとした理由は分からぬといふが、今後も検討していく。

加賀学校教育課長

不登校に関して、毎月学校から報告をいただく定例報告でも、不登校の理由等をあげてあった。昨年度も不登校の理由については、はつきりしないといふ報告が多かった。学校も苦慮されているところであるが、友人関係であったり、教育的なものであったり、家庭環境的なものがあるので、一人一人見極め、学校ができる対応を考えていきたい。

渡邊教育委員

出現率の資料について、数値は絶対であるが、多面的、多角的に見る必要があると思い、このような見方をした。令和

2年度と令和5年度の3年間の推移について、令和2年度は全国の合計は2.05であり、令和5年度は3.72となっている。これは1.814倍であった。県は1.980倍、八代市は1.810倍であった。全国、県よりも伸びは少ない。全国や県が不登校がどんどん増えてきたのに対し、八代市はそこまで増えていない。これをどう考えるとよいかと思うが、皆さんはどうだろうか。

中村教育サポート  
センター所長

全くの肌感覚であるが、令和2年度当時、教員だった者としては、新型コロナに対しての敏感な反応をとても感じていた。これが都会よりも八代市が高いというのは、高齢化率が高かったということもあるのではないか。家族に高齢者がいるので、学校には出せないという家庭が多くあった。5類に移行しても、新型コロナに対する怖さが続いていると感じている。また、幼稚園の先生方から聞くのは、令和2年度に1歳児、0歳児だった子供たちはあまり影響を受けていないようと思われる。しかし、この頃、他の子供たちとの関わりを持ち始める3歳児は、いろいろな制約を受けた影響を受けていると感じると言われていたのを、当時聞いたことがある。この子供たちが、それから4、5年経って、小学校に入学してきているということを考えると、新型コロナの影響が大きかったことが、不登校の増加にもつながったのではないかと想像できるが、渡邊委員の分析のように、八代市のほうが全国や県より出現率がむしろ少なかったということは、私の考えとは逆になる。これについては、希望的理由であるが、学校の先生方を中心にずいぶん頑張ってこられたのだろうと思う。

渡邊教育委員

学校の努力は感じる。くま川教室で指導員をしていて思うのは、令和2年から6年にかけて、子供たちが頻繁に来るようになつた、来れるようになった時期である。今年は少し少なく、3月末までにどのくらいの出現率になるか分からないうが、やはり学校の取組はとても大きく、それを支える教育委員会がどのような動きをしていくか、今回のアンケートについても、教育長の手紙を添え、各学校が不登校の子供さんの自宅に行ってお願いをされている。このような大きな動きが、学校の先生方にもしっかりと伝わり、いい方向へ流れが変わるのでないかと期待している。

早田教育委員

八代市は県や国と比べると出現率が高いが、県も国も出現率が増加しているというのは、教育だけの問題ではないのではないかと思う。社会的な問題であり、社会として問題をどう解決していくかを考える必要があると思う。私も保護者の一人であるが、保護者間でもいろいろな考え方があり、多様

な考え方があるので、それに対応していかなければならぬと思う。教育委員会で、子供の居場所づくりは必要であるが、教育の問題を教育だけの問題ではなく、みんなと一緒に考えましょうと呼びかける時期になっているのではないかと思う。先日、災害支援で東京から来られた子供支援団体のカタリバさんとお話をしたが、八代市は子供支援団体が少ないですねと言われた。確かにそうであると思う。他の市町村には、子供支援団体があり、そのようなところとまずは連携をするという話をされた。子供支援団体が少ないということもあるが、それを支える土台がないのではないか。やりたいと思った方はこれまでいると思うが、継続することが難しかったり、土台がないためにできなかつたという背景もあるのではないか。まずは、この課題を八代市全体として考えていくことが、教育委員会としてできることではないか。先日、私が所属している八代南ロータリークラブに、第一中学校長と学校教育課長にお話をさせていただいた。教育の話を八代市の商業や経済に携わっている方が聞く機会があつただろうか。とてもよい機会だと思った。参加された皆さんからも教育について考え、よい機会だったという話があった。八代市に住んでいらっしゃる方々と一緒に考えていくことも、これから必要ではないかと感じた。

また、学校に行かなくなると、学校へ行くということがハードルが高くなると思う。決められた時間に起きなければならぬ、ご飯を食べなければならぬ、友達と会わなければならぬ、決まった時間で話を聞かなければならぬなどのハードルがあるので、もう少しハードルを低くして、子供たちの居場所づくりができるとよいのではないかと思う。

澤村教育委員

社会全体で不登校に対する支援を実践していくというような時代ではないかと思う。学校も教育委員会も精一杯手を尽くしている。学校でできること、教育委員会でできること、社会全体でできることを割り切る時代ではないかと思っている。教育委員会として、保護者同士の支援、拠点づくり、学習支援については重要な仕事であると思う。先進地視察で見たようなオンライン学習など、できるだけ早くできるようになるとよいと思う。また、くま川教室は千丁町に移転したが、人口や必要とする人の多い中心部に拠点がもう1つあつたほうがよいのではないかと思う。八代市的人口規模から考えても、1カ所では少ないとと思う。中心部にくま川教室があると、助けになるのではないかと思う。

丸山教育委員

今回のアンケートの実施については、保護者対象としてあるが、回答については、子供たちの意見が反映されていると理解してよろしいか。それとも、子供たち向けのアンケート

が別途、実施されているのだろうか。

中村教育サポート  
センター所長 今回のアンケートについては、WEB回答であったので、  
入力については保護者にお願いをしたが、子供たちの意見を  
聞きながら回答されるよう伝えている。

中教育長 不登校の子供たちについては、令和4年度がピークであり、令和5年度に一旦下がったが、また増加しているという傾向にある。令和7年度は少し増加するのではないか。まずは、未然防止であり、不登校になった子供たちに対する居場所づくり、支援を両方で進めていかなければならない。教育現場はしっかりと頑張っているので、それ以外のいろいろな支援を活用していくなければならないというところであるが、それを発信していくのは教育委員会であると思う。どのような発信をして、どのような手当を講じていくのか、これからしっかりと検討していきたい。よろしくお願ひしたい。

## 5. 連絡事項

教育政策課 第2回総合教育会議 (11/4)  
学校教育課 八代市中体連駅伝競走大会  
(10/16、県大会 11/7)  
I C T 教育推進モデル校研究発表会  
(10/31 金剛小)  
小中一貫連携教育実践校 小・中学校実践発表会 (1/29 千丁小)  
学校・園訪問日程変更  
(第一中 10/22、八竜小 10/23)  
生涯学習課 やつしろ市民大学後期公開講座 小泉八雲とくまもと (10/24)  
八代市立図書館40周年記念行事 秋の図書館まつり (10/24~11/9)  
教育サポートセンター  
令和7年度八代地区科学発明工夫展 (10/4・5)  
第4回トワイライトセミナー (10/23)  
博物館 博物館出張企画展示「昔の暮らしと道具展」  
(お祭りでんでん館 8/19~10/5)  
文武に生きた筆頭家老・松井家ただいま参上  
(県立美術館 9/30~11/24)  
事務局 10月定例会日程確認 (10/27 14:00~)

## 6. 会議録署名委員の指名

丸山委員・早田委員

## 7. 閉会

(午後3時02分 閉会)

令和　　年　　月　　日

署名委員

---

---

記録者

---